

北見赤十字病院 がんサロン ほほえみ

ほほえみ通信

Vol. 105

2017/12/26 発行

第105回 ほほえみ 開催

12月20日（水）第105回 ほほえみを開催しました。

今年最後のほほえみ開催となりました。

5名と参加者は少なめでしたが、参加者の方からいただいた、ケーキの差し入れと共に、ゆっくり話が出来ました。同志だからこそ話せる、“がん患者あるある”で盛り上がっていました。

今年1年ありがとうございました。

また来年もよろしくお願い致します。

次回のほほえみは、1/17（水）14時から16時まで
本館3階 **特別会議室**での開催となります



【がんサロン事務局】

『がんの痛み』

（がん体験記）

がんは様々な痛みを伴う。手術の傷あと、腫瘍の箇所、治療の影響による痛み……。中でも一番痛むのは、“心”なのではないかと思う。

がん告知を受け、人生の絶望に打ちひしがれ、死を目の前に感じたとき、悲しみに心が引き裂かれそうになる。家族のことを思い、仕事のことを考え、時に夢を諦め……。

健康な人たちとの間に感じる壁もまた、私たちにとっては“痛み”となって心に纏う。それは、どこか疎外感のような、“孤独”という痛みである。

そして、手術、治療と進んでも、安心はできない。そこには“再発”という不安があるからだ。何年も……。いや、一生、再発の不安を抱えて生きていかなければならないという心の痛みは、きっと誰もが感じているだろう。

『がんは治る病』と言われるようになった。

が、私たち経験者には、受け入れ難い“理想論”にしか思えないときがあるのだ——。

（北海道／女性／乳がん／がん患者本人）